

工学部 オンラインオープンキャンパス

高大接続・教育連携機構 花堂奈緒子

前回ご紹介した情報工学部オープンキャンパスに続き、今回は8月6日・7日に開催されました、工学部オープンキャンパスについてお伝えします。

工学部は来場型でのオープンキャンパス開催をギリギリまで検討していましたが、福岡県の新型コロナウイルス状況が急激に悪化したことを受け、やむなくオンラインのみでの開催となりました。そのため、公開講義や大学説明会、入試説明会を企画の中心とし、来場している雰囲気を出せるだけ感じてもらうため、壇上で説明しているものをそのままライブ配信したり、Zoomを使った講義ではチャット機能を使って参加者にクイズに答えてもらいながら双方向でやり取りする、といった工夫を行いました。この他に、対話型コンテンツとして学科相談や個別受験相談、キャリア相談、現役学生による寮生活や学生生活に関する相談コーナー

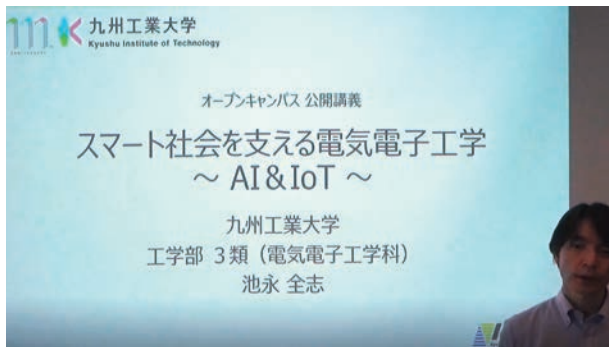
なども設けられました。

2日間での延べ参加者は1,600名と工学部でも昨年度を大きく上回り、全国各地そして海外から(！)の参加者もありました。

ライブ配信の公開講義では、工学



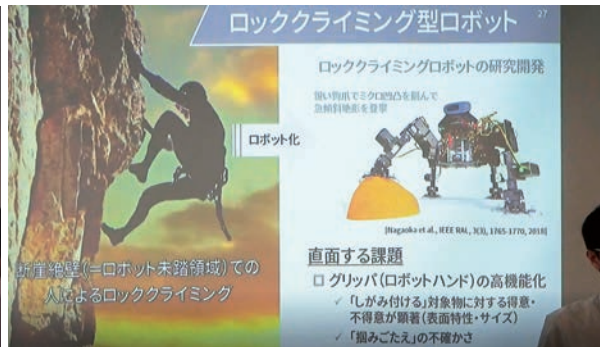
工学部広報委員会副委員長 黒島准教授による大学説明会。
対面開催での説明会の雰囲気を出すため、登壇しての説明をZoomでライブ配信しました。目の前にはチャット画面を表示し、参加者からの質問にリアルタイムで回答していただきました。



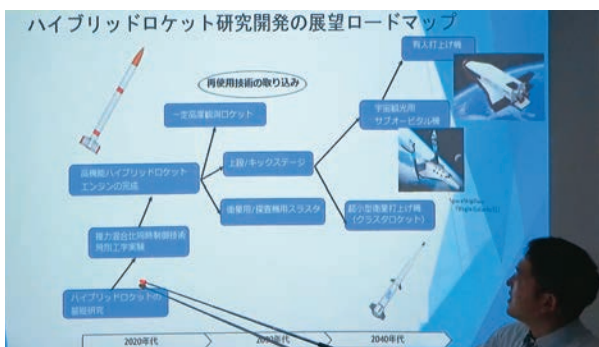
1日目のライブ配信による公開講義

(右)機械知能工学科 永岡准教授による、月惑星探査で活躍する宇宙ロボット開発の最新研究紹介。

(左)電気電子工学科 池永教授による、情報通信技術を活用した電気電子工学科での最新研究の紹介。今ある課題を新しい技術で解決してよりよい社会を作るためのモノづくり研究がいくつも紹介されました。



部での最新研究を紹介する4つの講義が行われました。



2日目のライブ配信による公開講義(1)

宇宙システム工学科 北川准教授による、先進的ハイブリッドロケットシステムの研究紹介。「誰もが気軽に宇宙に行ける」21エモン(藤子・F・不二雄)の世界に近づいていることを感じられる内容でした。

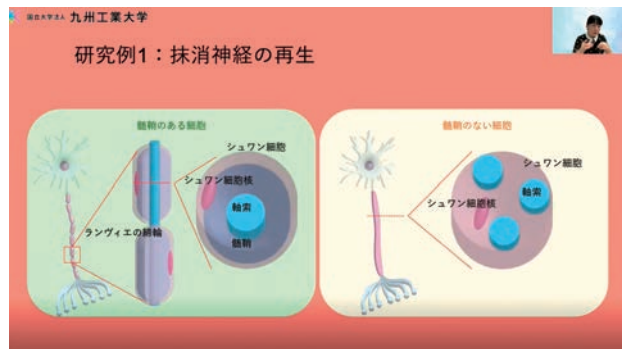
工学部の中でも人気が高い宇宙関係分野から月探査用の宇宙ロボットや安全に人を宇宙に運ぶためのハイブリッドロケットエンジンの研究、これからも注目されていくAIやIoTを支える基盤技術としての電気電子工学分野での研究や学び、捨てられるカニの甲羅を再利用して再生医療での実用化をめざす医療材料の研究など、非常に興味深い最先端の研究紹介を熱意たっぷりに先生たちが講義しました。いずれの公開講義にも、時間内では答えきれないほどの質問が相次ぎ、司会者が困ってしまうほどの盛況ぶりでした。

大学だより

公開講義は参加者からのアンケート回答では「工学の魅力に触れることができたと思います」や「貴重な話のなかに興味を引く内容が多く他の研究も知りたくなった」というコメントがあり、満足度も非常に高い企画となりました。

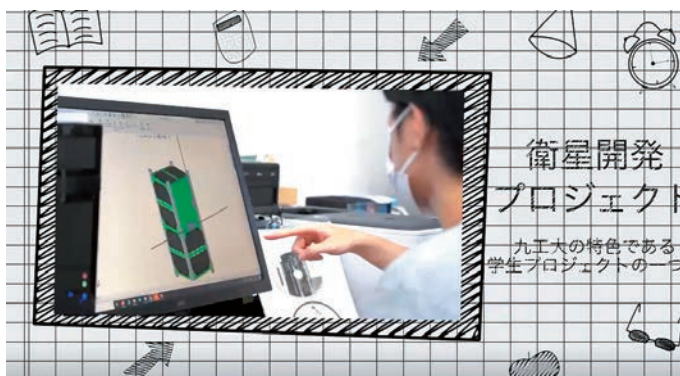
また、各ライブ配信のオープニングでは、工学部の現役学生が制作した学生生活紹介のショートムービーが入学後の九州工大ライブへのわくわく感を演出してくれました。

対話型コンテンツにも多くの参加がありました。学科相談・個別受験



2日目のライブ配信による公開講義(2)

応用化学科 城崎准教授による、キチンナノファイバーを医療分野で利用する研究の紹介。女性研究者が少ないのは日本だけという現状や研究者としての最終ゴールについてもお話がありました。



現役学生制作のショートムービーの一部

昨年度来、オンラインの広報で様々な動画を見ていますが、プロの作品と見まごうようなできあがりです。入試広報でもそのまま使わせてもらいたいです。

相談会には各学科の担当教員が丁寧に対応し、アンケートでは「大学説明会と学科案内・相談会のどちらでも質問に丁寧に答えてくださったので、学部、学科に対する疑問が解消され、方向性を認識することができました」や、「相談会ときに教授の方々が笑顔で対応してくださったので安心して参加することができました。とても楽しかったです」といった回答が寄せられました。九州工大を卒業されたOB・OGの皆さまからすると当たり前と感じられる対応

ここまで2号続けてお伝えしたように、オープンキャンパスをはじめ、今年度もコロナ禍の中で多くの制約を受けながらの学生募集広報となりました。しかしながら、ふたを開けてみれば今年度最初の入試であり2



学科相談・個別受験相談会の会場

説明をしている先生方もとても楽しそうに話をされていて、撮影しているだけでもフレンドリーな雰囲気が伝わってきてうれしくなるような説明会でした。

かもしれませんが、学部教員が直接受験生の相談に乗ってくれる機会とこの度は、実は九州工大以外の国立大学ではそれほど多くありません。受験や入学後の生活への疑問の解消と合わせて受験勉強へのモチベーションの向上にも間違いなくつながったはずですよ。

回目となる総合型選抜Ⅰの志願倍率は2年連続4倍超えという結果となり、「何としても九州工大で学びたい」という多くの受験生を集めることができました。この号が皆さまのお手元に届くころには、総合型選抜Ⅰの結果が出ているころですが、この数字は、広報や入試に関わる教職員だけではなく、すべての教職員やひとりひとりの学生たちの協働、そしてなにより本学の評価を高めて下さっている卒業生の皆さまのお力添えがあつてのものです。

逆境の中にあつても、昨年度の早い段階から新たな取り組みであったオンラインでの入試広報や入試の実施を試みるところは、その時代時代で常に新しい技術に進取の精神で取り組んできた本学の伝統のひとつのように思います。ポストコロナの新しい時代をデザインしていく若者たちを受け入れ・育て・世に送り出すために、古きを守りながらも新しいことへのチャレンジを続ける今の大学の姿を、本稿を通じてお伝えできれば幸いです。

(九州工業大学 高大接続・教育連携機構 AO部門 講師)